

職場見学バスツアーの報告 稲生会

居宅介護等事業所ばでい
上野未紗



今回の職場見学バスツアーでは、稲生会さんにお邪魔し、お話を聴かせて頂きました。
稲生会さんでは、「生涯医療クリニックさっぽろ」と併設する、「訪問看護ステーションくまさんの手」「地域生活支援イリバ」「短期入所事業所どんぐりの森」「相談室あんど」の4施設で、難病や身体障害を抱える方々の自宅療養を支えています。稲生会さんでは、N I Vという、鼻マスクを用いた人工呼吸器療法の導入を支援しています。N I Vは気管切開する前の段階で導入し、在宅での使用が可能です。

「地域生活支援イリバ」さんでは、子どもから大人まで幅広く利用しており、医療を必要としながら自宅で生活する子どもたちを支援する「居宅介護部門」と、地域で自立生活を送る方の地域生活を支援する「自立支援部門」があるとのことでした。

私は、医療的ケアを必要とする方々の支援に入り始めたばかりのため、今回のバスツアーで稲生会さんに訪問するとのこと、参加を希望しました。医療と福祉や、関係機関との連携が大切だとわかっていても、なかなか医療の方々と関わる機会がないため、今回のようなお話を聴ける機会があり、嬉しく思います。また、いま関わっている方だけではなく、札幌市全体の医療福祉についても、考える機会となりました。病気や障害があっても、安心して自宅で暮らせるお手伝いができるよう、自分自身のスキルや知識を身に付けていきたいと思いました。



社会福祉法人札幌緑花会松泉学院 見学レポート

NPO 法人ひなた 藤本 あや



先日、さっぽろ行動援護ネットワークさん主催の「職場見学バスツアー」に参加させていただき、施設入所支援・生活介護・共同生活援助等幅広い事業活動を行う社会福祉法人緑花会松泉学院さんへお伺いしました。

まず、広大な敷地に所在する大規模な施設に驚きました。

施設内に入ると、すれ違う利用者さんが元気よく挨拶をしてくださったり、気さくに話しかけてくださる方も多く、皆さん生き生きと生活されているように見えました。

施設内の随所に、利用者さんが制作した手編みの手袋、折り紙、絵画などが飾られており、スタッフが利用者さん一人一人の個性や趣味、特技等を理解し、それらを活かした活動提供がなされているのだと感じました。これはその人らしさを引き出すための支援でもあり、個人の尊重でもあり、非常に重要なことであると感じました。



施設内の壁には、利用者さんへのわかりやすい情報提供のため、絵や写真を用いた献立表、顔写真入りの勤務表などが掲示されており、視覚支援の工夫が見られました。

また、利用者さんのコミュニケーション支援・自発性支援のためアイパッドの導入や、PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を取り入れ、月に一度「すまいるカフェ」という手作りのカフェを開催しているとのことで、様々な工夫があるのだと学びました。

施設見学を通し、周囲のスタッフの方の支援や気配り、利用者さん同士の関わりによって、その人らしい生活を支えているのだと感じました。

私自身は今年の9月から行動援護ヘルパーとなり、まだまだわからないことばかりですが、今回松泉学院さんの施設見学をさせていただいたことで、個々に寄り添いその人らしさを大切にしていくこと、一人一人が快適に過ごしていくために様々な工夫を凝らしていく重要性について学ぶことができ、自身の仕事にも活かしていきたいと思いました。



松泉学院さま、今回は貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。